

郷土資料館新設にいたる経緯



山崎町旧郷土資料館建物（現在救急施設）

1 昭和 56 年度に山崎町内生駒市消防署内に生駒市郷土資料館が開館
その後、救急専用施設への改修のため、平成 11 年 7 月 11 日に閉館

2 市所蔵文化財の管理状況

・市所蔵資料数

民俗文化財（約 1, 2 0 0 点） 埋蔵文化財（約 4 0 0 箱） 古文書（約 7 0 箱）

・収蔵状況

収蔵場所

- ・生駒北小学校旧学童保育施設（東生駒会社寮跡地から移動）
- ・鹿ノ台小学校空き教室
- ・あすか野小学校空き教室
- ・芸術会館収蔵庫

3 生駒市郷土資料館新設検討委員会

- ・17・18 年度に、各分野の有識者（5 名）等による生駒市郷土資料館新設検討委員会が発足
- ・コンセプト 『いのち 生駒山 川 道』、施設の機能、役割等について議論。18 年度末に検討結果を報告

4 旧生駒町役場庁舎（中央公民館別館）の活用

- ・21 年度にその耐震性を見極めるために耐震診断の実施
- ・「登録有形文化財(建造物)・旧生駒町役場庁舎」として国の登録原簿に登録(22 年 4 月 28 日)

登録有形文化財・旧生駒町役場庁舎

所 在：生駒市山崎町 11 番 7 号

建設年：昭和 8 年（1933） 築後 77 年 供用開始年：昭和 9 年（1934）

面 積：1,231 m²

耐震診断時作成建築面積 約 551 m² 延床面積 529 m²

登録対象面積 533 m² (532.5856 m²)

構 造：木造平屋建（棧瓦葺、一部鉄板葺） 木造軸組工法 布基礎

設 備：市民ホール別館（120.75 m²）集会室（和室 35 畳、舞台・床の間）
土蔵 中庭 物入れ等

歴 史：大正 10 年（1921）北生駒村が生駒町となって以来、もともと役場があった山崎に昭和 8 年に新築された。昭和 30 年に南生駒村と合併し、33 年本町庁舎新設を契機に内部を改装し、翌年 6 月に中央公民館として開館、56 年に中央公民館が北新町に新設されたことにより、同年から中央公民館別館として市民の利用に供している。

設計者：中川吉治郎

設計・建設を担当した中川吉治郎は、南生駒村小瀬村（現在の生駒市小瀬町）に生まれた。祖父は矢野騒動の主謀者である小瀬村大工与兵衛である。吉治郎は宝山寺の営繕修理に尽力し、市内にも往馬大社拝殿、西教寺本堂などの寺社建築及び生駒小学校旧本館等（昭和 50 年建替）などの建築を手がけた。

文化庁の評価：

「正面 24m のコ字形平面とする木造平屋建の背面に土蔵等を付属。外装下見板張で、肘木や妻飾等に伝統的な意匠をあしらい、正面中央及び左右に入母屋破風を見せる堂々とした構え。和風官庁建築の好例」との評価を受ける。



本市の文化財行政

1 文化財調査事業

- 古文書、仏像、民俗等調査、埋蔵文化財発掘調査の実施
- 埋蔵文化財の保存活用事業として、大量にある出土土器の分析と学習教材の整備または省スペース化を目指し、再整理事業をおこなっている。



21年出土遺物展示状況

21年8月20～23日・450人来場

2 活用普及事業

- ・出土遺物展示「ワクワクドキ土器！?はっくついこま2010－発掘調査成果展－」開催
予定：22年8月20日～同22日 芸術会館美楽来
- ・文化財マップ・ハンドブック「生駒の歴史と文化」、各種調査報告書の頒布
- ・生駒歴史文化セミナーの開催「重要文化財・宝山寺獅子閣の修理現場見学」（40人聴講）
- ・教職員夏季研修、小学校体験学習の実施
- ・生駒市デジタルミュージアムHP公開
(アクセス件数 年間約4,000件)
- ・古文書デジタル資料化
- ・高山城跡遊歩道管理事業
- ・指定文化財保存事業
建造物防災管理・小修理事業、
宝山寺獅子閣保存修理事業
市指定文化財後継者育成事業



生駒小学校体験学習状況

懇話会新設の趣旨等

22年度

- ・郷土資料館新設検討懇話会発足 検討結果を教育長に報告
- ・郷土資料館基本設計（懇話会と並行実施）
文化庁・県教育委員会の指導を受け、役場庁舎時代の復元的修理・耐震補強
- ・『第5次生駒市総合計画』～市民が創る ぬくもりと活力あふれるまち・生駒
基本理念
「市民主体のまちづくり」
「自助・共助・公助」
「持続可能な都市経営」